

# 本部だより

●第 27 号



マーシャル方面遺族会

<http://mibfa1926.com>



携帯サイト

●環礁・本部だより第 27 号 ●発行日:平成 25 年 2 月 1 日 ●発行人:黒川誠  
●マーシャル方面遺族会本部:〒142-0051 東京都品川区平塚 3-4-17  
●電話 03-3783-8382 ●FAX03-6410-4420 ●振替番号 00100-0-93487



シャノン・ベイム司令官より本会に贈呈された慰霊碑全景写真

## 謹 賀 新 年

篤志会員  
徳原徳子  
山村 要

監査役  
内海淑子

書問志津子  
岡野智津子

幹事  
高林芳夫  
山口良二  
草場 寛

会長  
黒川 誠

相談役  
大給湛子

本部役員及び篤志会員

平成二十五年



# 平成25年度 慰霊祭・総会・直会のご案内



黒川 誠  
会長

明けましておめでとうございます。

会員、会友の皆様にはお健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

本年の慰霊祭・総会・直会を次の通り行います。皆様お誘い合わせてご参加くださいますよう、お待ちしております。

## ■慰霊祭

日時 平成25年3月31日(日)

受付 靖国神社参集殿前・午前9時より開始致します。

◇受付で出席者名簿とご照合の上、参集殿にお集まりください。

本会専用の桜型リボン・ワッペンをお貼りになった方のみが昇殿参拝が出来ます。

慰霊祭 午前10時(ご本殿)

## ■定期総会

慰霊祭終了後、「靖国会館」前にて記念撮影を行います。その後、同館2階「田安の間」にて正午より開催致します。

## ■直会(なおりい)

総会終了後、その場所が会場となります。閉会は午後3時の予定です。

## ●お願い

◇同封の出欠はがきには、欠席の方も各項目にご記入の上、2月末日まで本部に到着するようにご投函下さい。

◇本会への年会費(3千円)、寄付金、直会費(1名4千5百円。当日のお申し込みは出来ません)、玉串料(1名5百円)は、同封の郵便振替用紙にて2月末日までにお送り下さい。

◇受付は毎年混雑致します。そのため受付での現金の取り扱いが出来ませんのでよろしくお願い致します。

## ●宿泊希望の方へ

◇「九段会館」は閉鎖のため利用出来ません。「ホテル・ヴィラフォンテーヌ」は靖国神社にも近く、ご推薦致します。ご自身でご予約してください。

◇「ホテル・ヴィラフォンテーヌ」

住所〒101-0065

東京都千代田区西神田2-4-4

電話番号03-3222-8880

ご予約は「総合予約センター」電話番号03-5339-1200「インターネット予約」は、<http://www.hv.jp>です。

## 平成24年度・マーシャル方面遺族会 永代神楽祭(命日祭)齋行

7月10日、靖国神社より「みたままつり」のポスターが届きました。今年で66回目です。大東亜戦争が終わって今年は確か66年になります。そうすると毎年催されて来た「みたままつり」は戦後から始められたこととなります。靖国神社に合祀された戦没者は古くは日清、日露、欧州戦争等々あり、夫々のいくさで戦死者はあつたはずで、ご英霊のみたまに對



平成 24 年永代神楽祭出席者

するまつりは66年以前はなかったのでしょうか。

ともあれ、今年も神社の境内は3万灯を超える献灯がポスターのように飾られています。私たちは永代神楽祭が終わるとすぐに帰ってしまいますので「みたままつり」の夜景は見たことがあります。青森のねぶたが献灯に灯が入る頃は賑やかなイベントが始まるのでしょうか。

今年特に感じたことは、昇殿参拝に若い人が非常に多かったことです。戦争を知らない世代が多くなることは祀られているご英霊もさだめし満足しておられることでしょうか。

本会の永代神楽祭は7月15日(日)、夏本番の厳しい暑さの中、出席者9名が昇殿参拝を致しました。

写真は、前列左より黒川会長、富田きみ、星野綾子。後列左より吉田正明、小田原利子、櫛崎馨、福永弥生、佐藤知子の皆さん。

### 平成24年度67回

## 全国戦没者追悼式

### 小田原利子

終戦記念日の8月15日、天皇后両陛下のご臨席のもと、念願でありました全国戦没者追悼式に参列する機会を戴きました。立秋は過ぎたとは云え、猛暑の中国界の代表の方や全国から遺族の方々が参列なさって厳かに行われました。本当に遠いところから参列なさるのは大変なことと思いました。

芸大の方々の生演奏の「君が代」が流

れたときは万感の想いがこみ上げて来るものを感じました。遺族の方々の想いは一に御霊よ安らかにという想いが感じられました。

私も父が戦死した時の年齢の倍を生きておりますが、遺族の方々も高齢になられております。あの戦争を忘れないためにもずっとこの追悼式が続いて欲しいと願っております。

追悼式終了後、靖国神社に参拝致しました。ものすごい暑さの中、本当に沢山の方々が次々と参拝されて居りました。しかも高齢の方は数える程で、若い方が大半でした。そのことにとても良かったと安心致しました。

私の息子達も祖父である私の父のことや戦争にとっても関心を持っておりまして、靖国神社にも良く参拝しているようです。私共はこれから高齢になり、希望に反して参拝出来なくなつて参りますので、是非末永く追悼の気持ちを持った若い方々が増えてくださることを願っております。◇当日のデータ 参列した遺族は約5800人(被災した岩手、宮城、福島)の3県からは140人)。最年長は

夫がフィリピンで戦死した富山県の島倉ふみさん（98）で、遺族の世代交代も進み、戦没者の父母は11年に続いて0人。妻は11年より19人少ない24人（全体の0.5%）で過去最少。最も多いのは子供で、3162人（65・6%）となりました。11年に続いてと東日本大震災後の節電対策で冷房を弱め、会場に氷柱が設置されていました。

## 平成24年度

## 東京都戦没者追悼式

多くの都民の尊い命が失われた先の大戦に終止符が打たれてから66年の年月が過ぎ去り、東京都では亡くなられた多くの犠牲者のご冥福を祈り、平和を願う都民の強い決意を表すため、8月15日に戦没者を追悼し、平和を祈念する日に、追悼式を文京シビックホールで実施しています。

当日は、黒川会長の代理として出席しました。11時45分開式し、国家斉唱、石原慎太郎都知事の式辞に続き、正午の時報に合わせて黙祷。会場壁面のスクリー

東京都戦没者追悼式で天皇陛下のお言葉を聴く（3枚合成パノラマ写真）



ンに映し出された武道館の映像を見ながら天皇陛下のお言葉を聴きました。

都知事は式辞で「現在の平和と繁栄が尊い犠牲の上になり立っている事実を決して忘れてはいけない」と強く述べました。

東京都議会議長、遺族連合会会長、遺族代表による追悼の言葉（父親をフィリピンで亡くした高橋和子さん）に続い

て献花（都知事以下参列遺族）が行われ、1時30分に閉会となりました。（本部）

## 徳原徳子さんと情報交換会

徳原徳子さんが例年の募参で来日され、本部役員との情報交換会が平成24年10月15日（月）東京恵比寿駅の「つばめグリル」で行われました。徳原さんほとてもお元気で「現地慰霊」を話題に意義ある交換会となりました。（晝間）

徳原徳子さん（右端）



平成24年  
マーシャル方面遺族会主催  
現地慰霊巡拝・報告



マーシャル方面遺族会では、平成20年  
以来の現地慰霊巡拝を行うことが出来ま  
した。日程は、平成24年11月3日から9  
日までで行われました。

参加者は、安藤としえ、泉水堯恵、伊  
藤義勝、内海淑子（団長）、奥井國男、  
笹幸恵、佐藤知子、鈴木千春、蜂屋雅代、  
蜂屋安理、松江正子、山村公也、吉田博  
光の皆さん。



シャノン・ベイム司令官とロドリック・ブレイロウ  
軍曹に感謝の言葉を述べる内海団長（ルオット島）

司令官の細やかな気配りに感謝

内海淑子（東京都）

平成24年11月6日、クエゼリン現地慰  
霊の朝は晴天に恵まれ、慰霊碑の前には  
テントが張られ椅子も並べられ、白い柵  
も綺麗に塗られて、周囲も掃除をされて  
居り、米国側の配慮に感謝しながら全員  
で準備に掛かりました。

持参した花輪を正面に飾り、白布を敷  
き各自持参のお供えや写真などを飾りほ  
ぼ出来上がった頃、ディーン・ワイリー  
大佐がお見えになりました。

昨日からお世話してくださっているチ  
ャーリーさんとビルさんも来てくださ  
いました。日本旅行の前泉さんの通訳で、  
「私達慰霊団の入島を許可して戴き感謝  
申し上げます。またこんなに綺麗に管理  
して戴きお礼の申しようありません」

と申し上げ、「遺族会の黒川誠会長から  
預かって参りました」とお土産をお渡し  
しました。皆さんは終始にこやかに私達  
の準備を見守ってくださいました。

式の進行を佐藤知子さんにお願  
いし、式次通り拝礼、国歌斉唱、祭文は私が会  
長の代読を務めました。

黙祷、般若心経を泉水さんの先導で読  
誦、追悼の辞を全員が述べ、海ゆかば、  
故郷、里の秋等合唱、私達が全員礼拝の  
後、皆さん方が丁寧に礼拝をしてくださ  
り閉会となりました。

花輪だけを残して片づけが終わり、照  
りつける太陽に喉の渇きを覚えた時、氷  
水の中に入ったペットボトルを差し入れ  
て戴きました。細かいご配慮に改めて感  
謝致しました。

翌七日は、ルオット島の慰霊に特別の  
お計らいで19人乗りの自家用機を用意し  
てください全員で行くことが出来まし  
た。ルオット島の慰霊碑も綺麗に白い柵  
が塗られ、私達が来るのを待ち受けて居  
たように感じられ、こんなに嬉しいこと  
はありません。

慰霊の準備は全員で前日のように致し

ました。ルオットの遺族は伊藤さんお一人でしたが、全員が同じ心で昨日同様式次通り国家斉唱、祭文、般若心経、伊藤さんを先頭に皆さんが次々に追悼の言葉を述べ、海ゆかば等合唱、礼拝を致しました。

ルオットではシャノン・ベイム司令官とロドリック・プライロウ軍曹も出席くださいました。昨日同様前泉さんの通訳で感謝の言葉を申し上げ、お土産も差し上げました。お二人とも丁寧にお参りしてくださいました。

その後バスで島内の日本軍の砲台や司令部の建物等を見て回り、再び自家用機でクエゼリン島に戻りました。

翌日島を離れる時、シャノン・ベイム司令官が飛行場までお出でくださり、大きな額に入った慰霊碑と慰霊祭の模様を組み合わせた写真をプレゼントしてくださいました（表紙参照）。

こうして私達の慰霊祭が出来ましたのは司令官始めきめ細かいお世話をしてくださいました方々のお陰と心から感謝致しております。

ありがとうございました。

父の念願だった慰霊巡拝に参加

## 吉田博光

（東京都）

私は福岡県久留米市出身の元海軍軍人、吉田勝喜の息子であります。父は昭和18年6月までクエゼリン島にて勤務していたそうです。そして内地に転属になり昭和20年8月には佐世保の海軍病院経理課にて終戦を迎えと聞いております。

その父が、私が東京在住のため度々上京していました。そして上京する度に靖国神社に参拝するのです。私は父に聞きました。「何故そんなに靖国神社に参拝するの」と。すると父が「靖国神社に来ると鳥居の上に戦死した同年兵、戦友の顔が次から次に出て来る」と言っていました。

私はその時靖国神社は普通の神社でなく、日本人としてお守りする神社だと自分自身の心に強く決意したことでした。また父はクエゼリンに慰霊に行きたいと度々言っていました。しかし個人では島に行くことが出来ず、6年前に亡くなりました。そこで息子である私が亡き父の

意志を継ぎ、今回の現地慰霊祭に参加させて戴きました。今回の慰霊祭に参加してまず驚いたことは、慰霊地が米軍関係者のお陰でクエゼリン、ルオット両島共綺麗に整理されていたことです。

私は両島の慰霊祭に参加して戴いた司令官殿に心よりお礼申し上げます。またここで眠っておられる英霊の方々のお陰でアジア諸国はほとんど独立出来ましたこと、戦後70年近く日本は戦争はなく、戦死者も一人もないことは世界に誇れることと思っております。

どうか安らかに安らかに眠りくださいと合掌して帰国しました。

兄・山村敏雄に故郷の姿を報告

## 安藤としえ

（宮城県）

平成21年に亡くなった姉（山森久江）が毎年のように墓参していましたが、その後私が継承し、やっと念願が叶い墓参することが出来ました。

平成21年頃から米軍の都合で何年も伸びびとなって、今年もなかなか連絡が来なかったのですがまた駄目かと内心がっか

りしていましたが、9月末に入島許可がおりました。早く行って兄に両親や兄弟に会わせてやりたいと思い、また兄が田舎で過ごしていた頃とは全く違い、写真に撮って家の周りの風景や父母が眠る墓地等を報告しました。

自分の目で見てここが激戦地とは思えないほど美しい島で、この地で兄は毎日この風景を見ていると思うと胸が詰まりました。

翌日は米軍の飛行機でルオット島に行き、資料室で額縁に納められた戦争の写真を見て、当時の戦局の厳しさが伝わってきました。こもクエゼリン島と同じく美しい島ですが、話によると到着後3日間で玉砕された若い兵隊さんが故郷を思い無念の気持ちで散ったことを思うと悔しい気持ちでいっぱいです。

私もここでお線香を上げることが出来て本当に嬉しく思います。

この島は戦後67年も経つのに戦車の残骸、トーチカ、司令部跡が凄惨に残っており、クエゼリン島と比較すると生々しくも思えました。これからも機会があれば是非慰霊に参加したいと思えます。最

後に米軍のご協力があったの墓参が叶えられたので、心より感謝しております。

### 大叔父の足跡を訪ねる慰霊の旅

鈴木千春 (東京都)

はじめて訪れたマーシャルの島、クエゼリンとルオット。日本から2日かかる遠い島だった。飛行機から見える真っ青な海面に、鮮やかなエメラルドグリーンと白のコントラストが映える大きな環礁。かつてここが日米の激戦地だったとは思えないほど、島は美しかった。米軍により整備された広い芝生、まぶしい陽射しの中、高くそびえる椰子の木が私達を出迎えてくれた。

強い風が吹いている。時々スコールが通り抜ける。海は5色のグラデーション。水平線から、紺色、群青色、青、緑、白の海。白く砕ける波は大きく、外海は荒かった。

ウオッセで亡くなった大叔父に会いに、初めて遺族会の慰霊祭に参加した。今回その島には行けないので、時間があればその方角をずっと見つめていた。

エモンビーチ (クエゼリン) と筆者



慰霊祭では遺族がそれぞれの想いを碑に語った。私は、「国家存亡の危機に際し、海軍に志願し、立派に戦ってくれた大叔父を誇りに思う。一族代表としてここに来られて本当によかった。若くして亡くなった貴方の無念を、過酷な青春時代を、しっかり学び、次の世代に伝えたい」そう話した。

島内に残る激戦の傷跡、トーチカや砲台、爆撃で崩れた司令部など戦跡も見て回れた。小さな資料室には、武器弾薬以

外に、酒瓶、カルピスの瓶、食器などここに生きていた人達の痕跡があった。幸いにも資料室の学者から米軍側のウオツゼ島の大きな地図と、ウオツゼへの戦闘記録を頂戴することができた。早く原文を訳して戦闘詳細を知ろうと思う。

大叔父は空から見てくれているか、波の中から見てくれているかわからないが、私は海に向かって一人「海ゆかば」と「君が代」を歌った。下手な歌も詠んでみた。

風の音に 尋ねし人の 声探す  
 南海はるか 白き波間に  
 遠き地に 眠りし人よ 安らかに  
 御霊は常に 我が胸にあり  
 群青に 寄せ返す波 いまもまだ  
 御国護りし 兵の想いは

生涯忘れられない旅になった。許可なき者は入れない島、時間的にも予算的にも、私にとつて、今この瞬間しかないタイムリングだった。遺族会をはじめ、ここ数年間の、大叔父の足跡を尋ねて生まれたすべての「ご縁」すべての「出会い」に感謝したい。

また、今回の私達に対する米軍側のホスピタリティに、心からの感謝と敬意を表する。「行つて良かった」この一言に尽きる旅だった。

父が精魂込めて製作した  
 慰霊碑に涙する

## 松江正子 (神奈川県)

現地に到着してまず目に入ったのは真っ赤な鳥居、慰霊碑を囲む真つ白な柵、赤いペンキ、白いペンキ、昨日にも塗ったように輝いて目が醒めるようでした。慰霊碑の周りもきれいに草取り清掃もされていきました。

クエゼリン、ルオットも同じようにテント、テーブル、椅子も用意され、私達一行の到着を待っていてくれました。

両島の司令官も出席され、3万5千の御霊に手を合わせてくださいました。私も握手をして戴きましたが、グローブのように大きい手で温かい手でした。とても親近感を感じました。言葉が通じたらいろいろお話をしてみたかったです。

慰霊碑の製作に当たり、船積み陣頭

指揮をしていた父にこの様子を見せて上げられたらどんなに喜び、安心したことと思います。

資料館で当時の写真を見せてもらいましたが、椰子の木は立っているものは一本もなく無惨な姿になっていましたが、今では椰子の葉が茂り静かなクエゼリン島でした。

慰霊碑を見守ってくださいるご当地の方々に感謝して帰って参りました。

このように多くの犠牲を払って日本は平和になりました。この平和を大切に戦争のない平和がいつまでもいつまでも続きますように祈っております。

慰霊を終えて

## 佐藤知子 (埼玉県)

あの晴れた日の午後、真つ白な軍服姿でご近所に挨拶回りをして南洋航海に出発し、洋上で戦時に切り替わり、その父と別れて早70年を過ぎました。

この度の慰霊は9回目になる。南洋特有な太陽に晒されながら、家族のこと、東日本の津波、そして昨年凶ならずも文部



科学大臣賞を受けた事など報告した。  
 出発前の結団式の席で突然の追悼文及び慰霊祭の進行係を仰せつかる。

出かける時、友よりメールで「東北は紅葉に雪が降った」と連絡があり、その美しい故郷へ父と共に旅したかった事も尽きることのない報告となった。

蜂に刺されながらも皆さんのご協力もあり、何とか役目を果たすことが出来、出発時無事を祈って飛び立った旅も、何事もなく全員無事に成田に着陸出来た時は力が抜けて行った。

クエゼリンの風の音

笹 幸恵 (東京都)

これは島ではない。基地だ。

クエゼリンの飛行場を出て、最初にそう感じました。もちろん米軍の基地だとして事前に聞いていましたし、頭では理解したつもりでいました。けれど実際に目にするまで、私はどこかで、今まで自分が訪れたことのあるギルバート諸島か、あるいはトラック環礁のようなイメージを持っていたのです。何となく緑が雑然と

していて、いつも風が道路の土埃を巻き上げていくような、そんな風景。

でもクエゼリンは違いました。椰子の木が整然と並び、芝生は整えられ、アスファルトの道路が島の先まで伸びています。ほかのどんな「南の島」とも違う近代化された島。多くの陸海軍将兵がこの地で命果てたことなど微塵も感じさせないような人工的な島。その光景にいささか戸惑いました。すべてが、あまりに美しすぎるように私の眼には映ったのです。



朽ち果てた銃器の横に立つ筆者 (ルオット島)

けれど宿舎に荷物を置いて一息つくと、ザザザーという風の音が聞こえてきました。どんなに目の前の光景が変わろうと、風の音は七十年前と変わりません。陸地から見た水平線も、打ち寄せる白波も、降り注ぐ太陽も、きつと変わらないはずです。自分よりはるかに年若い青年達と同じように風を感じ、はるか太平洋を望み、突き刺すような陽射しを浴びていたのかと思うと、途端に涙があふれてきました。

南国の美しい風景は、もし自分が彼の地で戦っていたのなら、恨めしいくらいに孤独を感じさせる光景に一変します。吹きすさぶ風は心の安寧を妨げることでしよう。一面に広がる海は祖国との断絶を物語り、強い陽射しは我が身から水分を奪い尽くします。平穏な今ならゆつくり堪能できる自然も、彼らがどう感じたかに思いを馳せれば、何もかも切なく、やりきれなさばかりが募ります。

そして同時に、祖国日本から遠く離れたこの場所で、よくぞ懸命に戦ってくださったものだと感謝の気持ちを新たにします。

その意味において、在島米軍が「日本軍墓地」として真つ赤な鳥居をクエゼリンおよびルオットに建ててくれていたこと、さらには今回の慰霊祭でベイム司令官はじめワイリー大佐、プレイロウ先任軍曹が参列してくださったことは、とても有り難いことでした。戦没者を追悼し顕彰する気持ちは、情けないことに米国のほうがはるかに勝っています。

また慰霊碑はもとより、トーチカや様々な軍の建物跡がきちんと維持管理されていることも大きな発見でした。

「皆様のことは決して忘れません」

私は、慰霊碑に向かってそう声を掛けることしかできませんでした。

最後になりましたが、共に旅をした皆様には大変お世話になりましたこと、この場を借りて御礼申し上げます。

また突然の団長任命で大役を果たされた内海様、お疲れ様でございました。そして有志であるにもかかわらず、会の一員として慰霊巡拝の旅に参加させていただきましたこと、黒川会長はじめ関係者の方々に、心より感謝申し上げます。本当に有り難うございました。

## 本会慰霊団が御地に参ります

マーシャル共和国・クリストファー・ロヤック大統領閣下へ

閣下には国家の平和と経済発展のため、毎日ご精進されておられることと拝察申し上げます。

現代の世界経済は非常に厳しい状況下であり、国政を預かる閣下も大変ご苦労の多い日々と存じます。ご存じのことと思いますが、昨年我が国は東関東大震災が起こり、慰霊巡拝行事を中止しました。

本年は11月に別紙の通り実施出来ることを書面にてお知らせ致します。

政府主催による慰霊巡拝もあります。が、年齢に制限があり、本会のように高齢者が多くては不可能です。さらに世界的な不況も災いして慰霊碑の建立されているクエゼリン島入島も厳しい申請審査が必要となりました。

それは規則である以上致し方のないことです。私達慰霊団がクエゼリン島まで来て大統領府のマジュロに表敬訪問をしないとすることは失礼に当たると考えま

したが、いずれも80歳を超える高齢者であることから残念ながら表敬訪問ができません。ご賢察下さるようお願い申し上げます。

先の大戦から半世紀以上の歳月が過ぎました。当時激戦地であったクエゼリン、ルオットも現在では緑豊かで椰子の木も実り、島はエメラルドグリーンに輝いて平和を象徴するようになり変りました。70年前に激戦のあったことなど想像も出来ません。しかしながらこの島では私達の親兄弟が玉砕したことを考えますとき、これからも身命の続く限り墓参に参りたいと思います。

2012年9月27日

マーシャル方面遺族会  
会長 黒川 誠

## 訃報

●浮田櫻代さん（浮田信家元会長夫人）が平成24年8月20日に亡くなられました。享年103歳でした。

●谷梯初江さん（同年6月16日・享年96歳）

●森田穰二さん（同年6月9日）

平成25年度～26年度 行事予定表

平成25年2月

年	月	日	曜	開始時間	場 所	行 事
25	1	2	水		靖国神社	平成 26 年度 慰霊祭申し込み
					靖国会館	平成 26 年度 総会 直会の申し込み
		20	日	午前 10 時	平塚橋会館	本部だより 27 号の発送他
	3	17	日	午前 10 時	平塚橋会館	平成 25 年度 慰霊祭の準備会議
					靖国神社	平成 25 年度 慰霊祭 総会 直会
	4	22	月		靖国神社	春季例大祭当日祭
	5	19	日	午前 10 時	平塚橋会館	本部だより 28 号の編集会議他
						千鳥ヶ淵墓苑拝礼式 期日未定
	6	16	日	午前 10 時	平塚橋会館	本部だより 28 号の校正他
	7	15	月	午後 2 時	靖国神社	永代神楽祭命日祭 (マーシャル方面遺族会)
					平塚橋会館	本部だより 28 号の発送他
	8	15	木		日本武道館	全国戦没者追悼式
					文京ホール	東京都戦没者追悼式
	9	15	日	午前 10 時	平塚橋会館	本部だより 29 号の編集他
10	20	日	午前 10 時	平塚橋会館	本部だより 29 号の校正他	
				靖国神社	秋季例大祭当日祭	
						沖縄戦没者追悼式 (東京都遺族連合会)
26	1	2	木		靖国神社	平成 27 年度 慰霊祭の申し込み
					靖国会館	平成 27 年度 総会 直会 の申し込み
		19	日	午前 10 時	平塚橋会館	本部だより 29 号の発送他
	3	16	日	午前 10 時	平塚橋会館	平成 26 年度 慰霊祭の準備会議
	4	5	土		靖国神社	平成 26 年度 慰霊祭 総会 直会

役員会本部会議室(平塚橋会館) TEL03-3783-6849

編 集 後 記

●平成 24 年の本会主催による現地慰霊巡拝では基地司令官をはじめ関係者の方々のご配慮もより内容のある慰霊祭が出来たと伺っております。団長の内海さんはじめ一行の皆さんご苦労さまでした。次回開催は平成 26 年になりますが、申請許可が必要となりますので本誌 26 号をご参照の上、ご準備ください。(黒)

●現地慰霊から戻りまして、早速靖国神社にご報告に参りました。姉(松江正子)と昇殿参拝し、「13 名は無事帰国致しました」とお礼申し上げました。「クェゼリンに慰霊に行つてね」と懇願していた母(内海静枝)は、私の報告を聞いて大変喜んでくれました。11 月 1 日で 101 歳になり元気に過

ごしております。(内)

●表紙を飾った写真は、シャノン・ベイム司令官より本会へ贈呈されたものです。大きさは新聞紙 1 枚分程あり、それを 6 等分にスキャナーした後、1 枚に合成しました。

●現地慰霊に関する写真は、奥井國男さん、鈴木ちはるさん、笹幸恵さんに提供して戴きました。(編集部)

●本会の HP (ホームページ) が昨年 1 月より始まっています。パソコンや携帯電話、タブレットなどで簡単に閲覧が出来ます。表紙の「QR コード」でご家族の皆さんとご覧ください。また、皆さんのご近況、英霊の思い出を編集部までお寄せください。(岡)

ケゼリン空港の特別待合室でシャノン・バウム司令官と副官を囲んで記念撮影



ケゼリン島主碑の前で祭文を奏上する内海代表



ルオット島慰霊祭のスナップ



ルオット島の慰霊祭の準備完了。供物の品々